

景気見通し調査(平成23年9月期)調査結果

福井商工会議所
中小企業総合支援センター

【調査の概要】

調査時期 平成23年9月12日(月)～14日(水)
調査方法 FAXによる送付、回収
調査対象 福井商工会議所 会員小規模事業所より 360件を抽出
(製造業・建設業・・・従業員20人以下の事業所
卸・小売業、商業・サービス・その他・・・従業員5人以下の事業所)
回答数 200件 (回収率55.6%)

	製 造	建 設	卸・小売業	サービス・ その他	合 計
5人以内	16(29.0)	23(26.5)	24(25.5)	19(19.0)	82
6～10人	17(19.5)	11(28.0)	12(29.3)	8(23.2)	48
11人以上	25(35.7)	19(27.1)	15(21.4)	11(15.8)	70
合 計	58(29.0)	53(26.5)	51(25.5)	38(19.0)	200

文中にでてくる「D I 値」とは

ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、景気動向を示す指標。「良い」「上昇」したとする企業割合から、「悪い」「下落」したとする企業割合を差し引いた値。

【調査結果の概要】

震災直後の一時的ショックからは回復するものの
5期連続、低水準で足踏み







- ① 業界全体の景況 DI 値は▲70.8と前回調査（H23年6月）と比べ、1.3ポイントダウンしているものの、H22年9月期より5期連続低水準で横ばい。
今後3ヶ月の先行きについては、DI 値は▲71.1と前回調査よりもマイナス幅が1.2ポイント改善した。
- ② 自社の景況感をみると、現在のDI 値は▲53.3となり、前回調査（H23年6月）に比べ0.2ポイントダウンしたが、H23年3月期より2期連続横ばい。今後3ヶ月の先行DIは▲55.6となり、前回調査（H23年6月期）より3.4ポイント改善。
- ③ 売上（受注高）については、現在のDI 値は▲35.1ポイントと前回調査より6.7ポイントアップ。3ヶ月先の先行DI 値は、▲42.3と10.5ポイントの改善し、H23年3月期より2期連続で増加傾向も、低水準で推移。
- ④ 仕入価格は現在で▲27.2ポイント、3ヶ月後の先行DIで▲31.6ポイントとなり、依然低水準ではあるがともにH23年3月期より2期連続改善傾向。
- ⑤ 販売価格は現在のDI 値が▲19.5で前回と比べ2.8ポイント、今後3ヶ月の先行DIは▲22.7で7.2ポイントダウン。
- ⑥ 当面の経営課題としては、内部要因では「受注・販売量不足」「販売・営業力不足」「人材確保・育成」が上位を占める。外部要因では「同業他社との競合激化」、「価格競争激化」、「原材料高騰」が多く、特に「原材料高騰」は前回調査に比べ10.8%減少し、前項調査同様仕入価格の落ち着きが見られる。

⑦ 各DI 値前回調査との比較 ※－（マイナス）は悪化、＋（プラス）は改善

	業界DI		自社DI		売上DI		仕入DI		販売DI		採算DI	
	現在	先行	現在	先行	現在	先行	現在	先行	現在	先行	現在	先行
全業種	-1.3	+1.2	-0.2	+3.4	+6.7	+10.5	+7.3	+10.2	-2.8	-7.2	+10.0	+4.4
製造業	-7.8	+0.2	+0.4	+3.4	-8.1	+7.3	-0.5	+8.0	-15.7	-16.9	+10.7	+7.8
建設業	+2.3	+4.9	+4.9	-2.3	-8.2	0	+2.5	+11.7	+12.4	+8.9	+13.2	-1.2
卸・小売業	-4.1	+6.1	-13.1	+8.7	+9.5	+15.5	+22.7	+14.0	-7.5	-16.4	+10.8	+14.7
代理店・その他	+3.1	-9.2	+4.0	+1.0	+14.7	+23.7	+4.9	+5.3	+31.6	+4.4	+4.4	-8.2

【業界別動向】

業種		キーワード		業界 (現在)	自社 (現在)	売上動向 (現在)
製造	+	<ul style="list-style-type: none"> ・中国向けが好調(機械製造) ・県外需要が発生。卸部門が好調(食品製造) ・半導体関係のため地震等で需要が多い(機械製造) ・業務用受注好調(食品製造) 	前回 H23.6	 ↓	 ↓	 ↓
	-	<ul style="list-style-type: none"> ・消費がまだ滞っている(食品製造) ・単価の値引きによる売上減少(機械製造) ・円高による輸出不振(繊維製造) 	今回 H23.9			
建設	+	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的に業界が7~9月は忙しい ・東日本大震災による耐震補強工事あり ・秋口にかけて受注見込みあり 	前回 H23.6	 ↓	 ↓	 ↓
	-	<ul style="list-style-type: none"> ・原材料の値上がりを価格転嫁できない ・受注減少・利益率低下 ・採算割れの受注 ・物件の粗利率が低すぎる 	今回 H23.9			
卸・小売	+	<ul style="list-style-type: none"> ・秋物売れ行きが好転予想(小売) 	前回 H23.6	 ↓	 ↓	 ↓
	-	<ul style="list-style-type: none"> ・震災や株安などによる買い控え(小売) ・円高による輸出不振(卸売) ・ギリシャ危機がいつまで続くのか全く予想できないことを主要因としたユーロ安の継続(卸売) ・継続的なユーロ安(円高)によるバイヤーの発注減少(卸売) 	今回 H23.9			
サービス・その他	+	<ul style="list-style-type: none"> ・忘年会の見込みあり(その他・運輸) 	前回 H23.6	 ↓	 ↓	 ↓
	-	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に仕事不足(サービス) ・市中心部の空室の増加(その他・不動産) 	今回 H23.9			

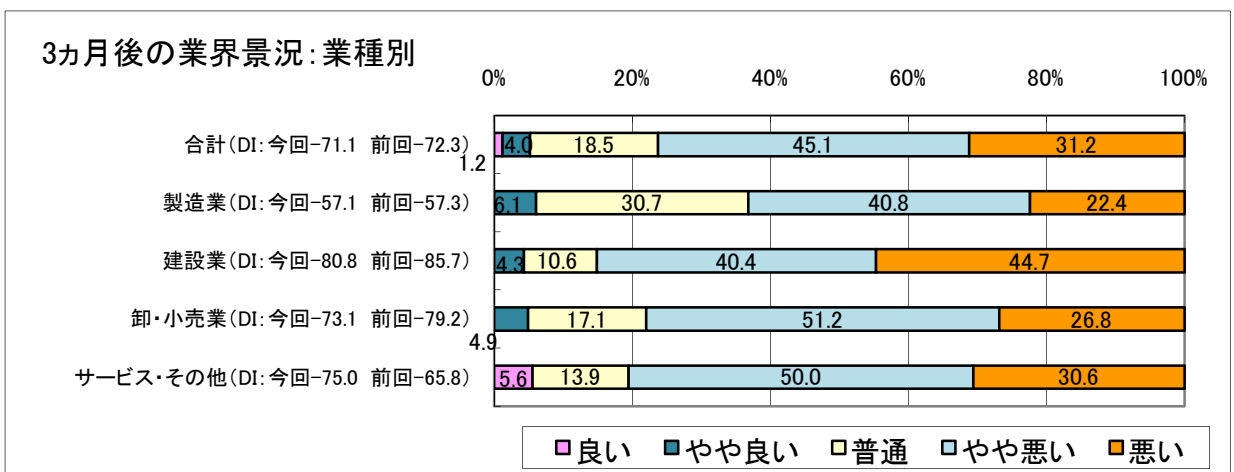
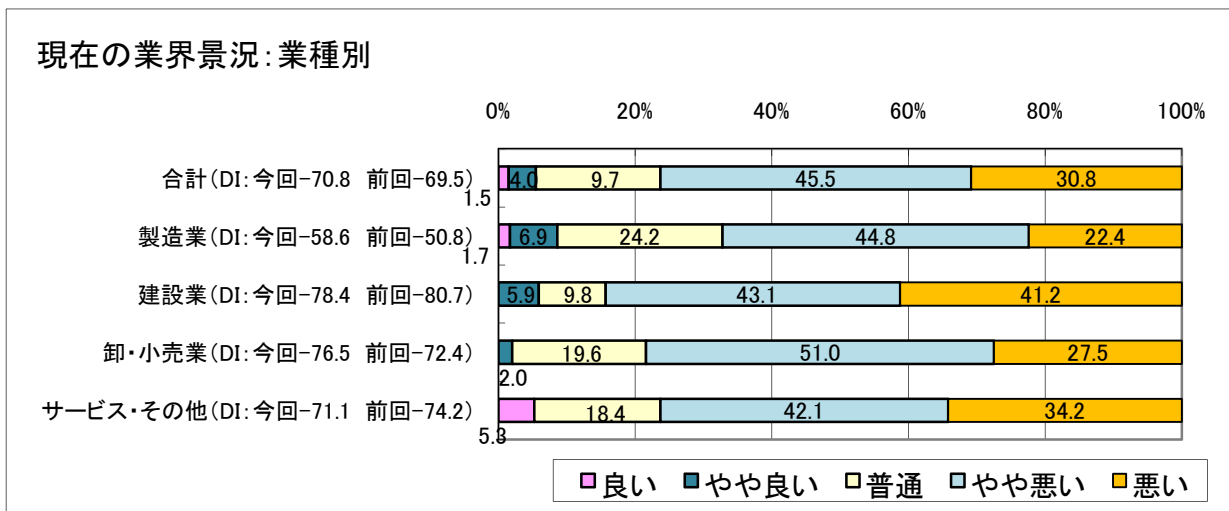
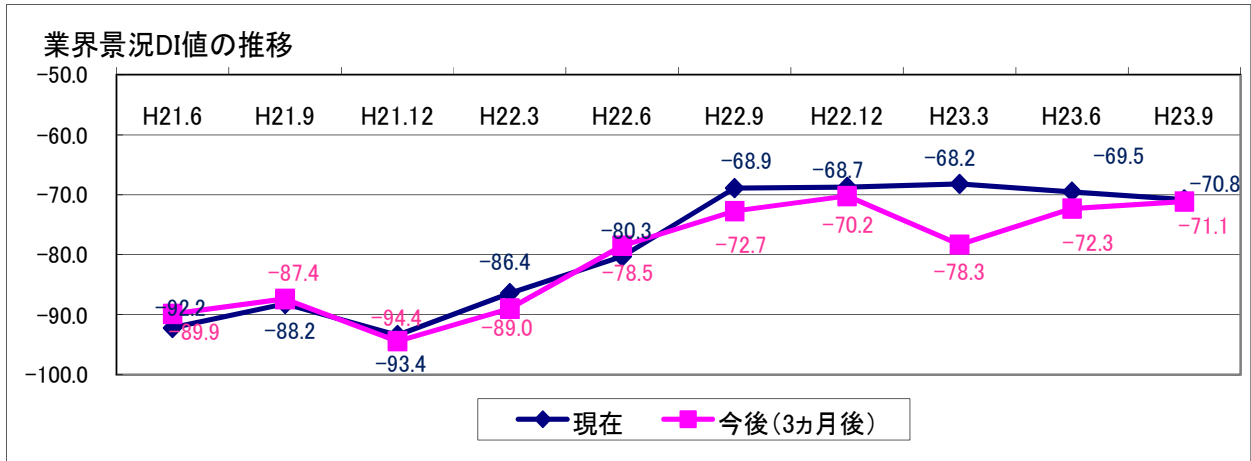
DI値	天気	DI値	天気	DI値	天気
20.1 以上		5.0~▲5.0		▲20.1~▲40.0	
5.1~20.0		▲5.1~▲20.0		▲40.1 以下	

【業界の景況】

～5期連続で低水準で横ばい 「先行き」も改善見られず～

業界全体の景況 DI 値は▲70.8 と前回調査（H23年6月）と比べ、1.3ポイントダウンしているものの、H22年9月期より5期連続低水準で横ばい。

今後3ヶ月の先行きについては、DI 値は▲71.1 と前回調査よりもマイナス幅が1.2ポイント改善した。

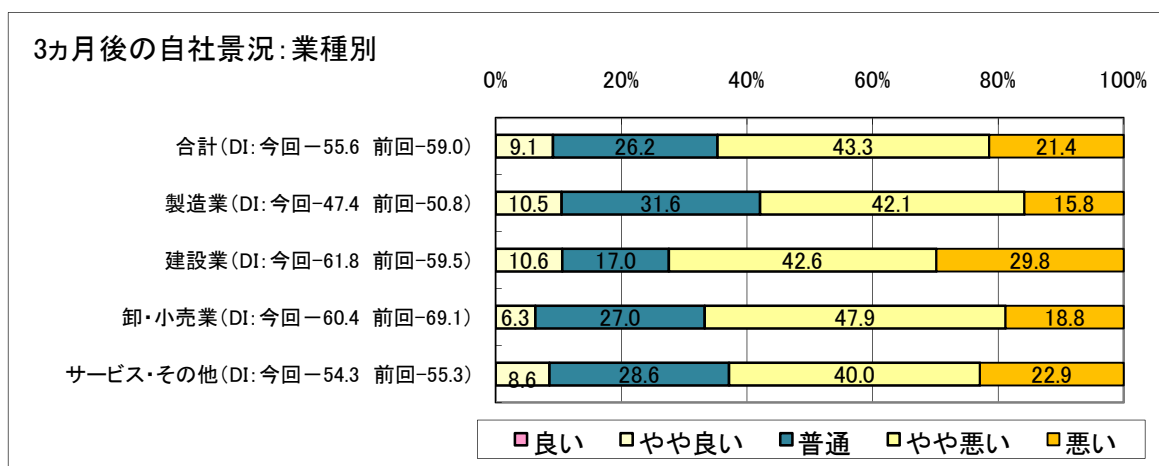
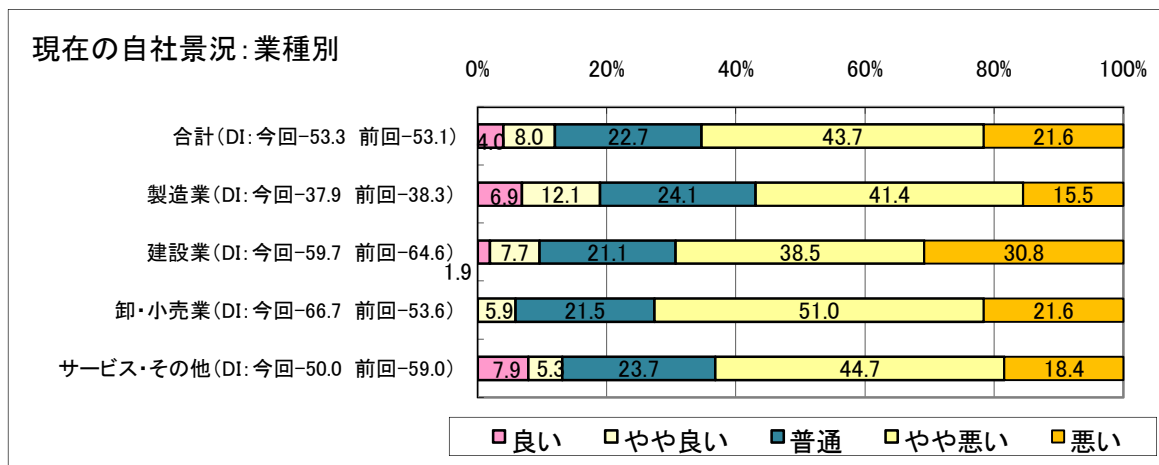
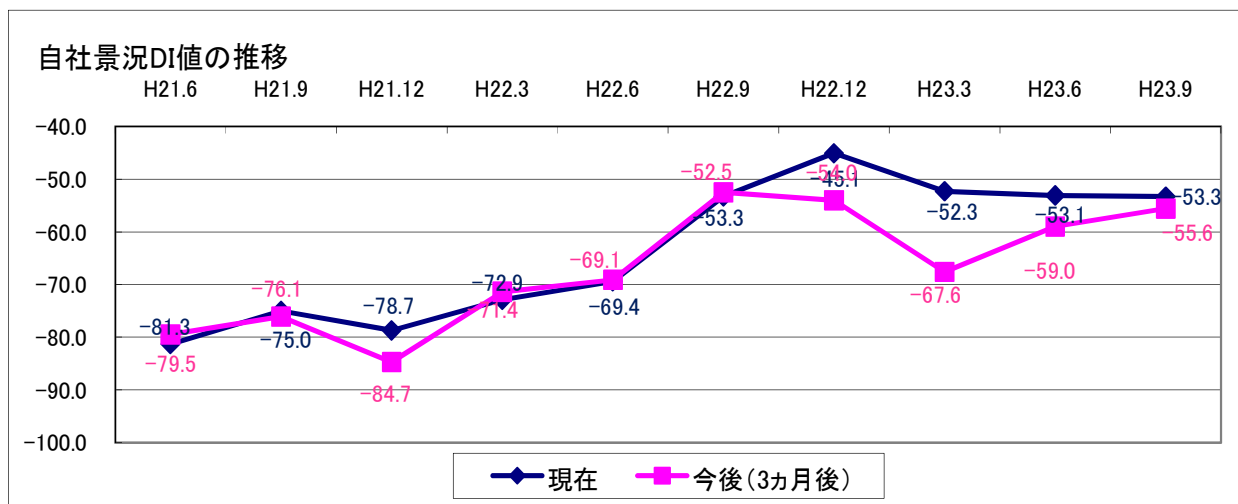


【自社の景況】

～「現在」は3期連続横ばい 「先行き」は2期連続の改善も未だ低水準～

自社の景況感をみると、現在のDI値は▲53.3となり、前回調査（H23年6月）に比べ0.2ポイントダウンしたが、H23年3月期より3期連続横ばい。業種別にみても、「卸・小売業」以外の業種で改善している。

今後3ヶ月の先行DIは▲55.6となり、前回調査（H23年6月期）より3.4ポイント改善。業種別では、「建設業」以外の業種で改善も、改善幅が小さく横ばいを予想。

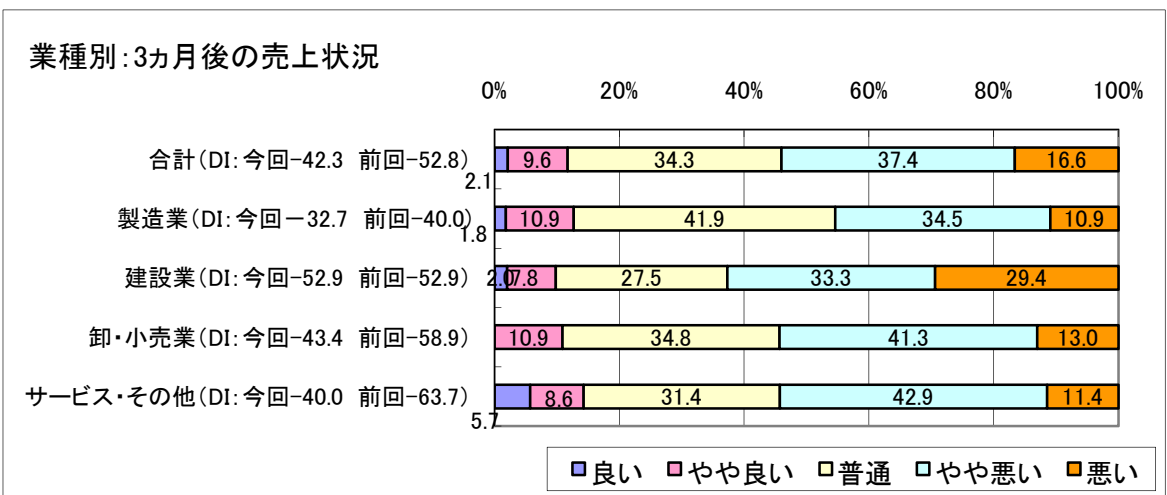
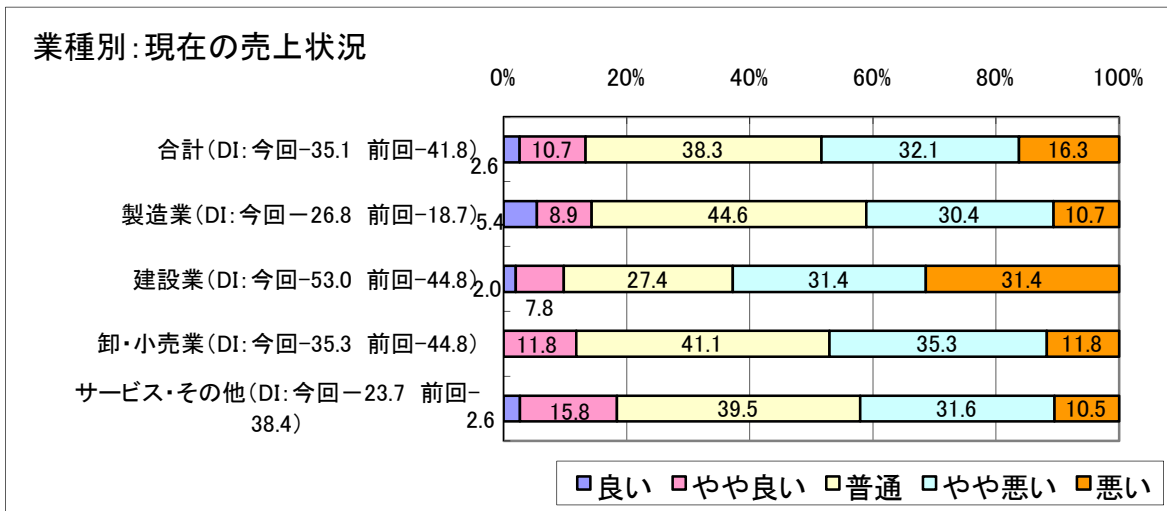
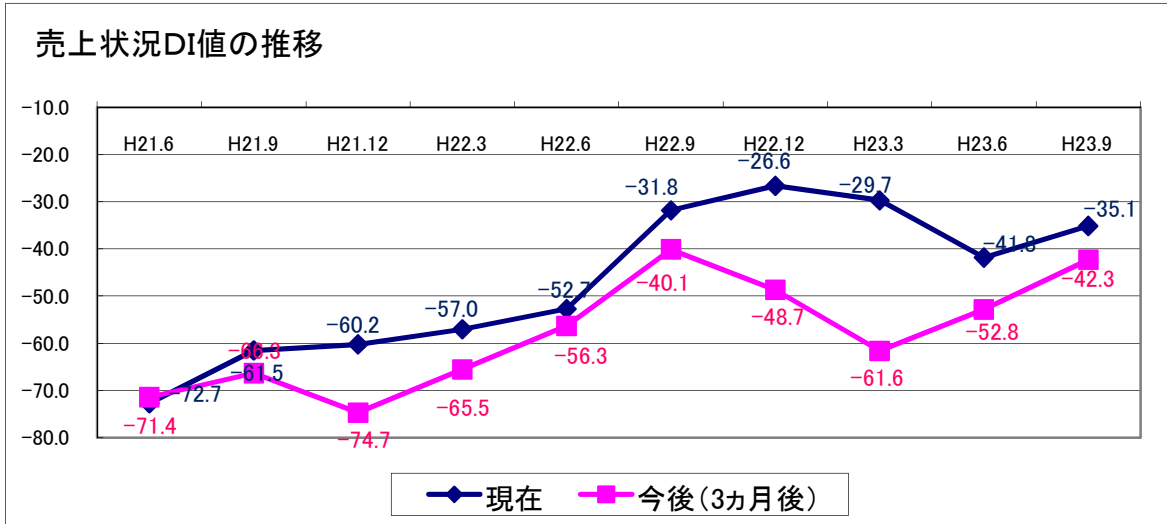


【売上（受注高）】

～「現在」で売上（受注高）増加に転じる、「先行き」は2期連続の改善も未だ低水準～

売上（受注高）については、現在のDI値は▲35.1ポイントと前回調査より6.7ポイントアップ。業種別にみると、「製造業」、「建設業」以外の業種で改善しており、特に「サービス業・その他」で大幅な改善。

3ヶ月先の先行DI値は、▲42.3と10.5ポイント改善し、H23年3月期より2期連続で増加も、未だ低水準で推移。業種別にみると、「建設業」以外の全ての業種で改善を予測。

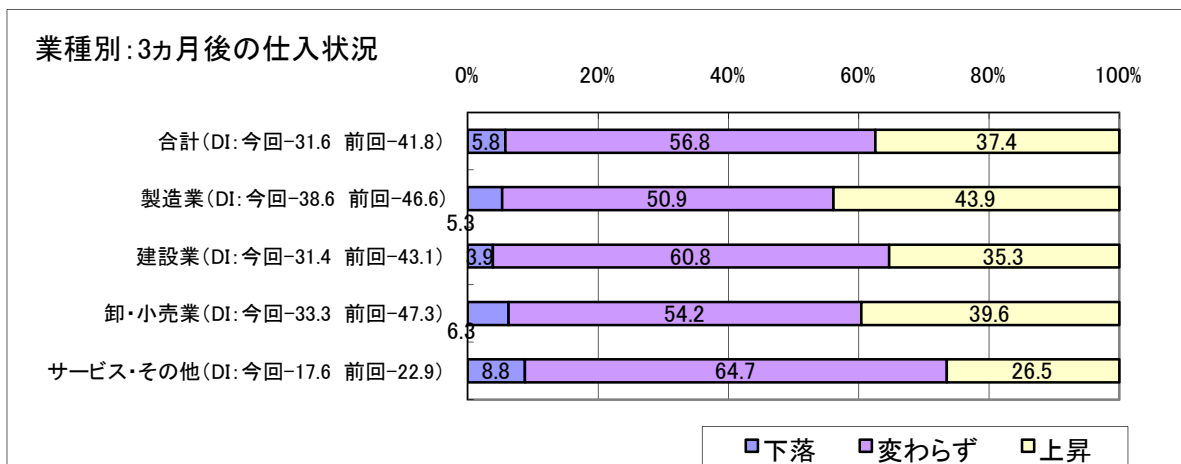
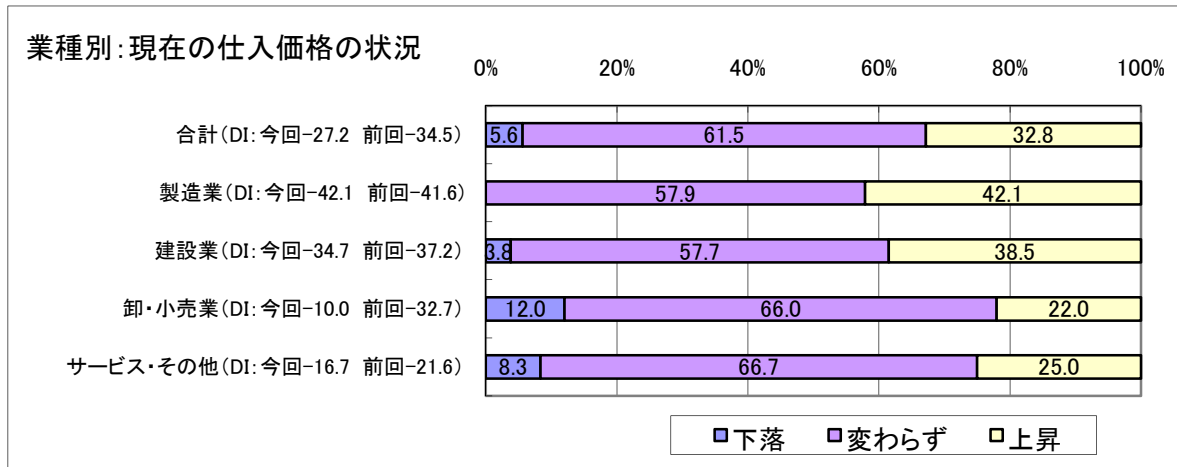
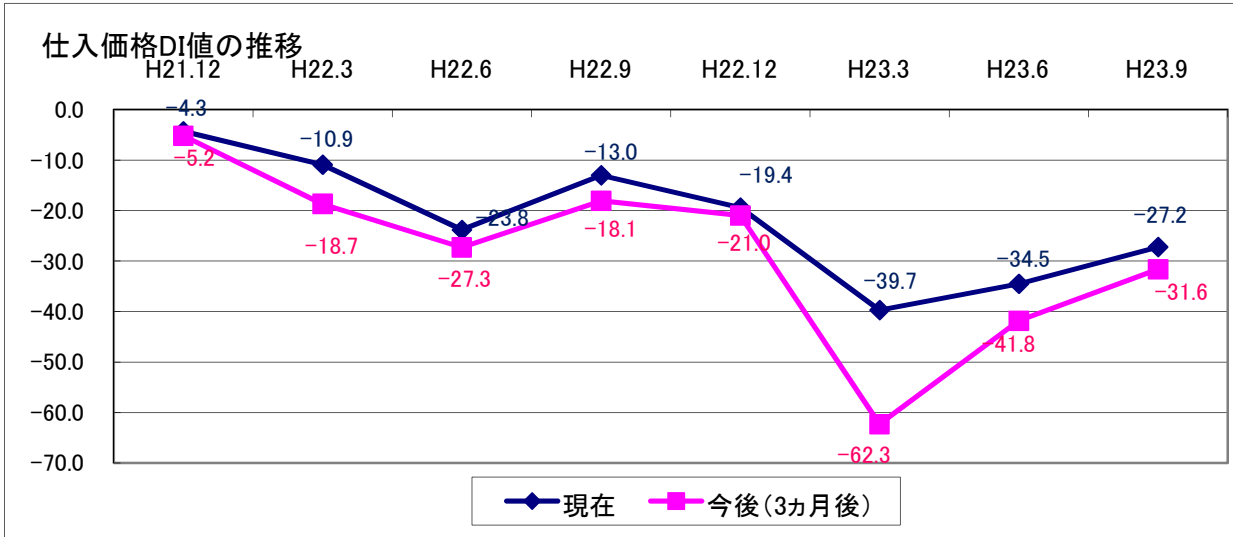


【仕入価格】

～「現在」「先行き」とともに2期連続改善傾向も「変わらず」が6割を占める～

仕入価格は現在で▲27.2ポイント、3ヶ月後の先行DIで▲31.6ポイントとなり、依然低水準ではあるがともにH23年3月期より2期連続改善傾向。

業種別にみると、「製造業」を除き全ての業種で改善しており、先行きについては全ての業種で改善を予想。中でも「卸・小売業」が最も改善幅が大きく、先行きの仕入価格低下に期待している。「卸・小売業」では繊維が、「サービス業・その他」については不動産仲介業がみられた。



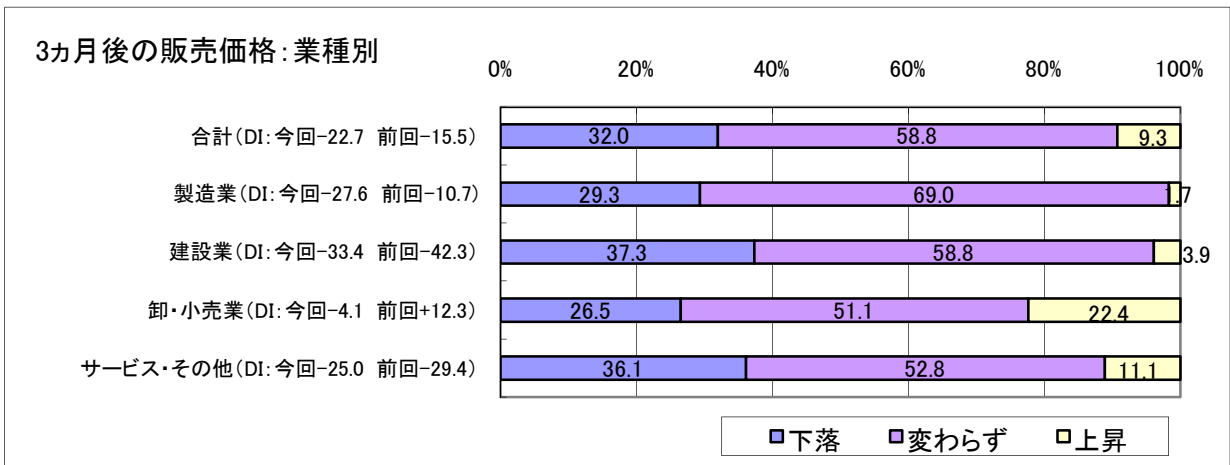
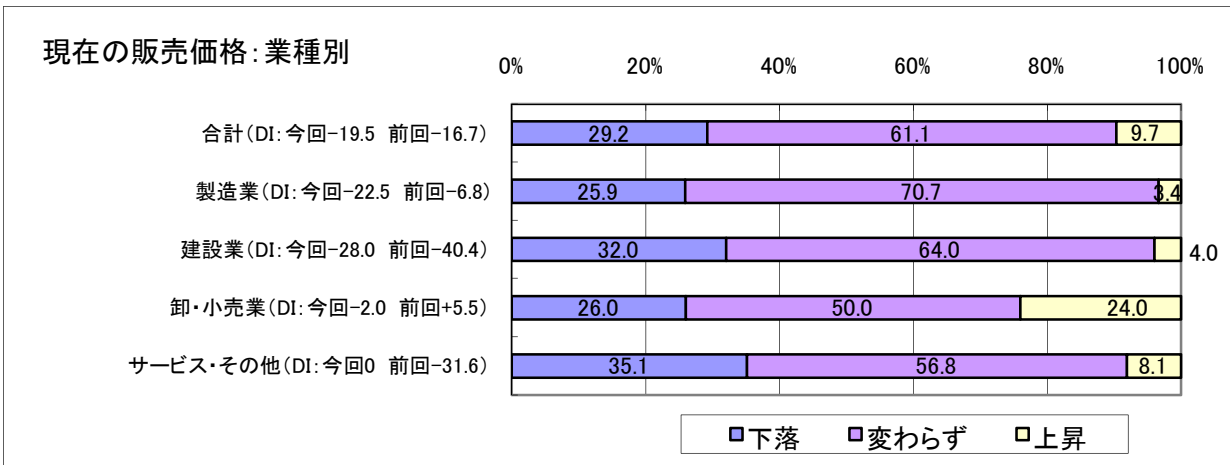
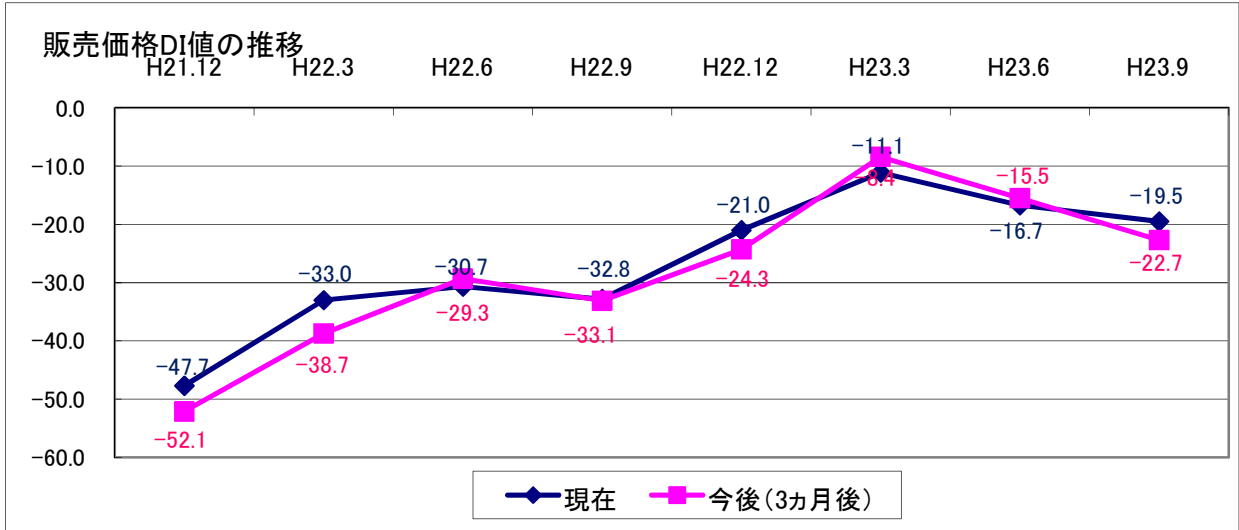
【販売価格（単価）】

～販売価格（単価）は2期連続悪化

「製造業」、「卸・小売業」悪化も「サービス業・その他」「建設業」は改善～

「現在」のDI値が▲19.5で前回と比べ2.8ポイント、今後3ヶ月の先行では▲22.7で7.2ポイントダウン。

特に「製造業」、「卸・小売業」ではどちらも大幅な悪化となっている。

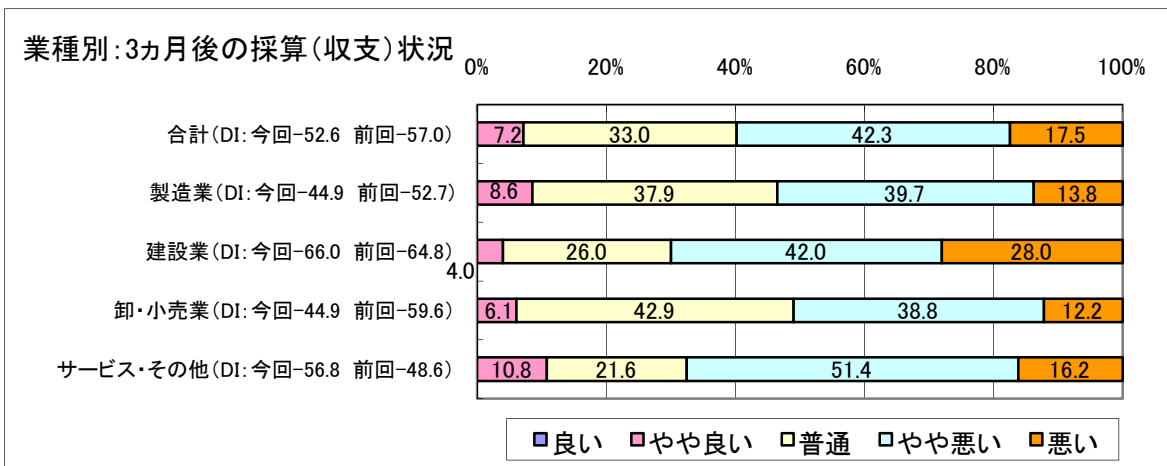
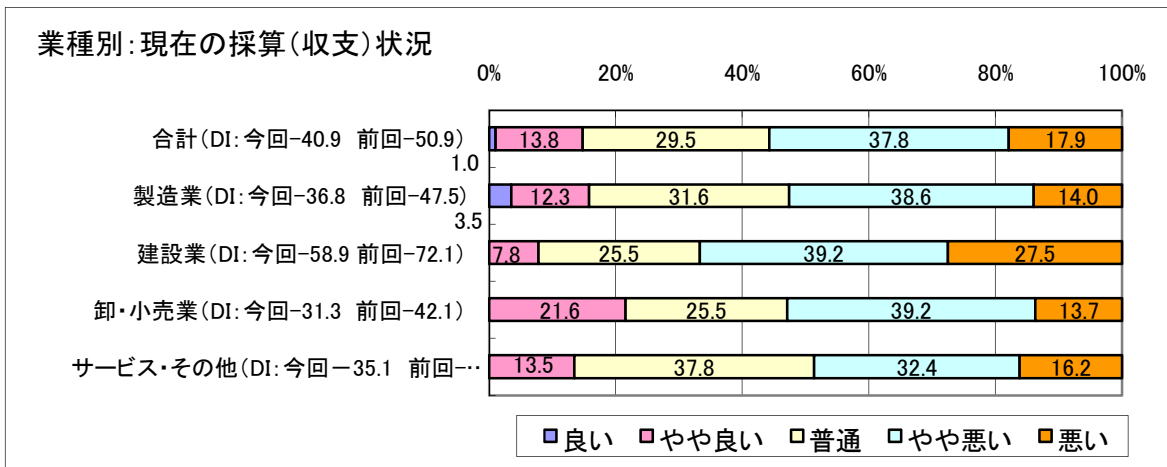
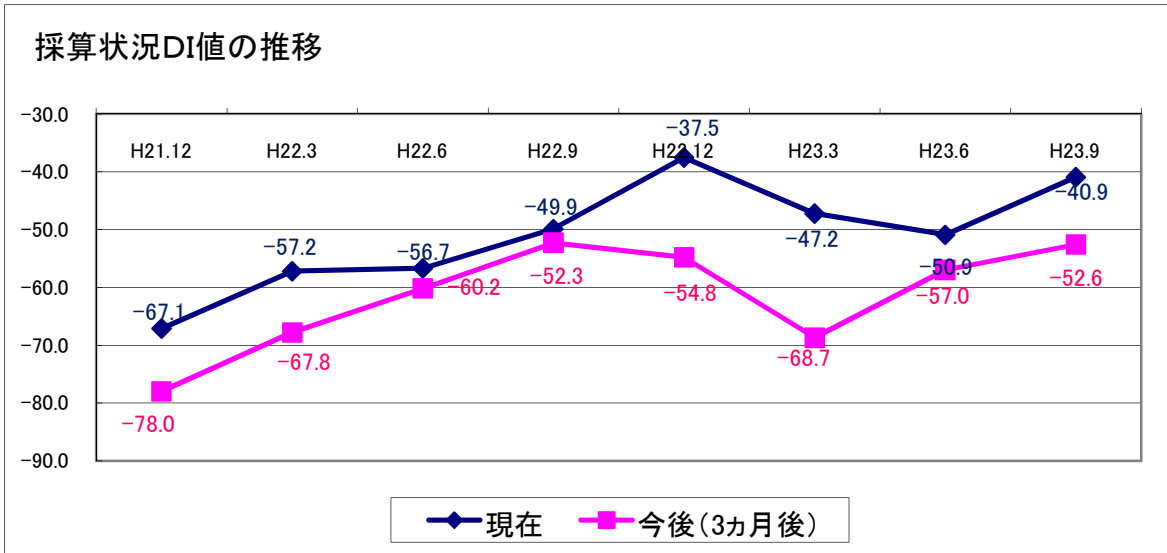


【採算（収支）状況】

～仕入価格・売上の改善により採算（収支）改善も、今後の採算悪化を懸念～

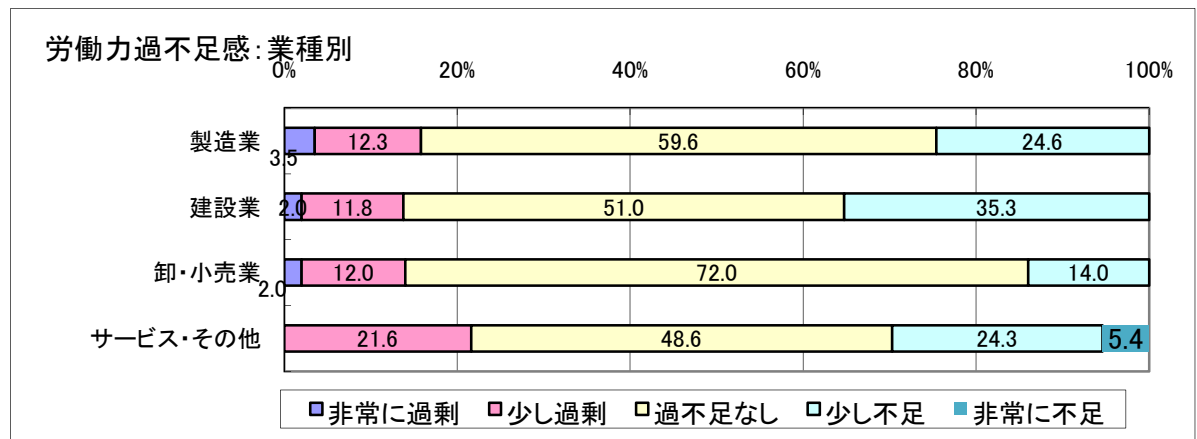
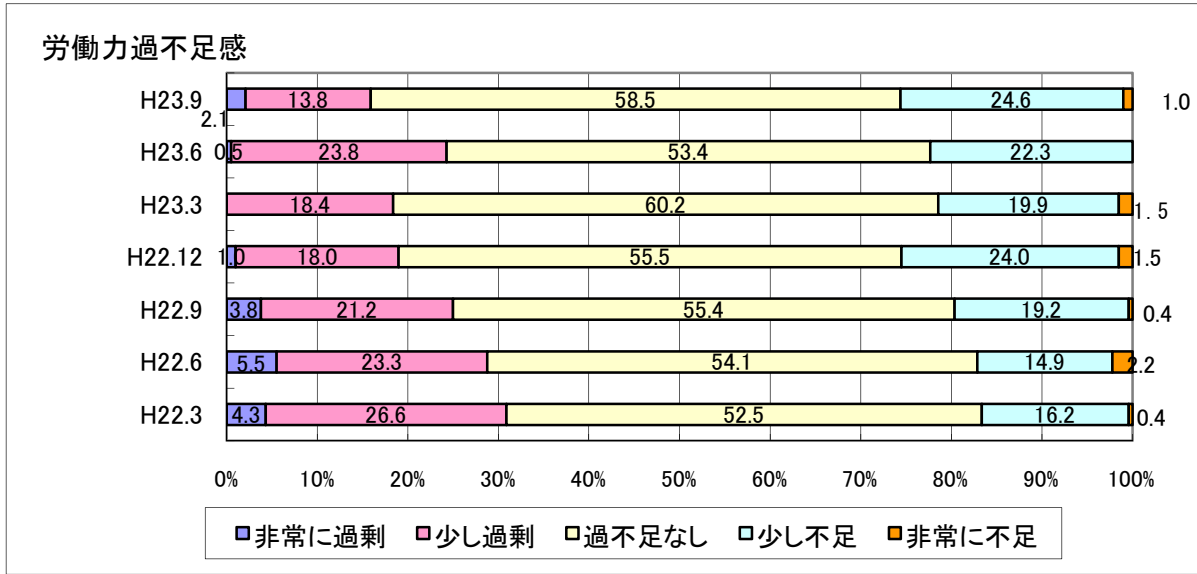
現在DI値は▲40.9と前回に比べ10.0ポイントアップし、H22年12月期から3期ぶりに改善、3ヶ月後の先行DI値は▲52.6で前回は4.4ポイント改善。現在DIを業種別にみると、「現在」では全ての業種で改善した。「先行き」は「サービス業・その他」、「建設業」で悪化した。

前回に比べ「現在」と「先行き」の幅の開きが大きくなり、「先行き」の悪化が懸念される。



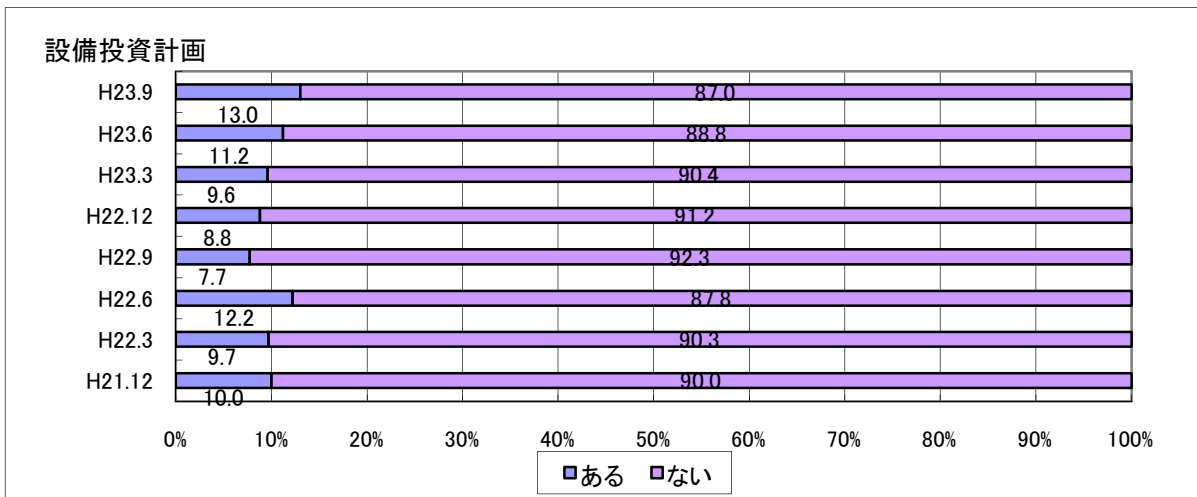
【労働力の過不足感】

「過剰」（「非常に過剰」「少し過剰」と回答する企業は 15.9%で前回調査より 8.4%減少、「不足」（「少し不足、非常に不足」と回答する企業は 25.6%と前回より 3.3%増加しているものの「過不足なし」が 58.5%と前回より 5.1%増加した。



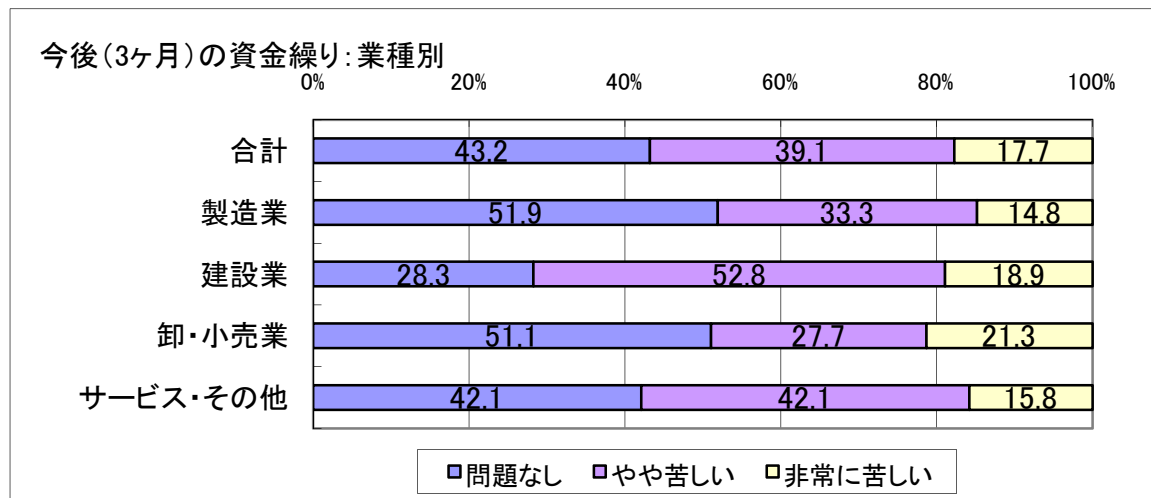
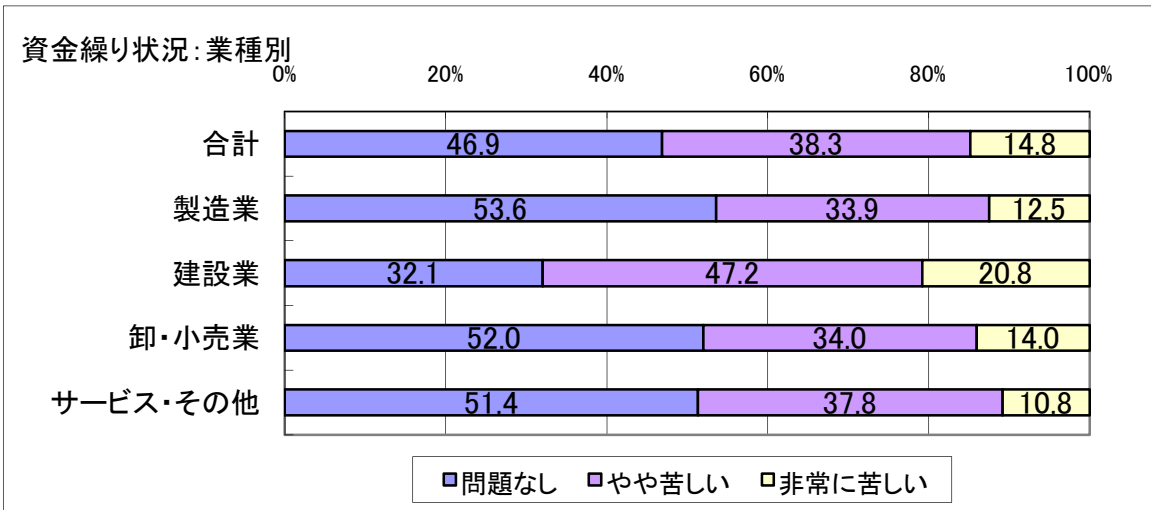
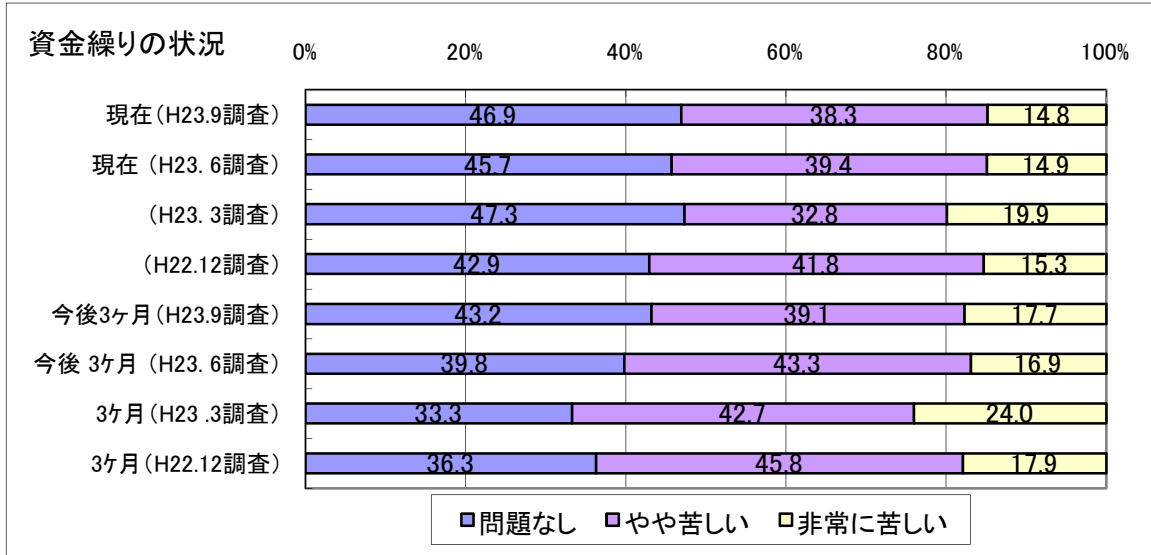
【設備投資計画】

今後 3 ヶ月以内の設備投資計画が「ある」と回答した事業所は 13.0%となり前回調査（H23 年 6 月期）より 1.8%増加したが、全体的に動きは弱含みである。



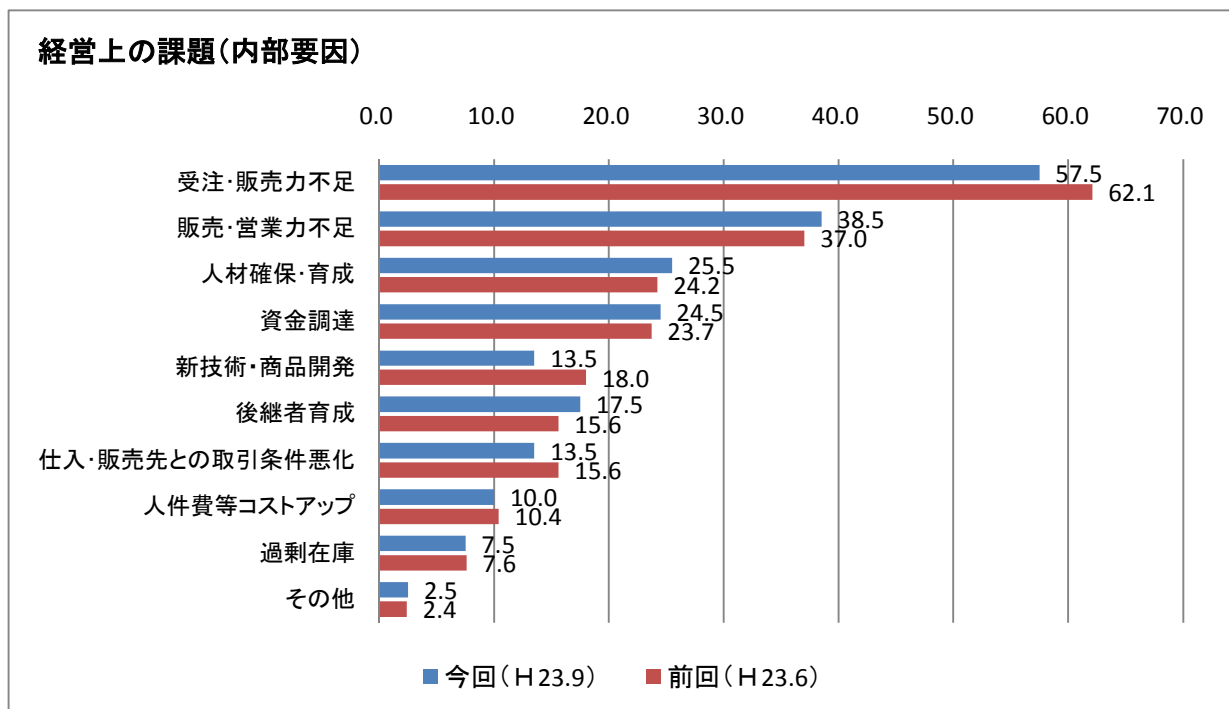
【資金繰り】

現在の資金繰り状況について、53.1%が「苦しい」（「やや苦しい」「非常に苦しい」と回答している。また今後3ヶ月後の予想では56.8%が「苦しい」と予想しており、依然として中小企業の資金繰りは厳しい状況。特に建設業で「現在」、「先行き」とともに資金繰りが苦しいと予想している。

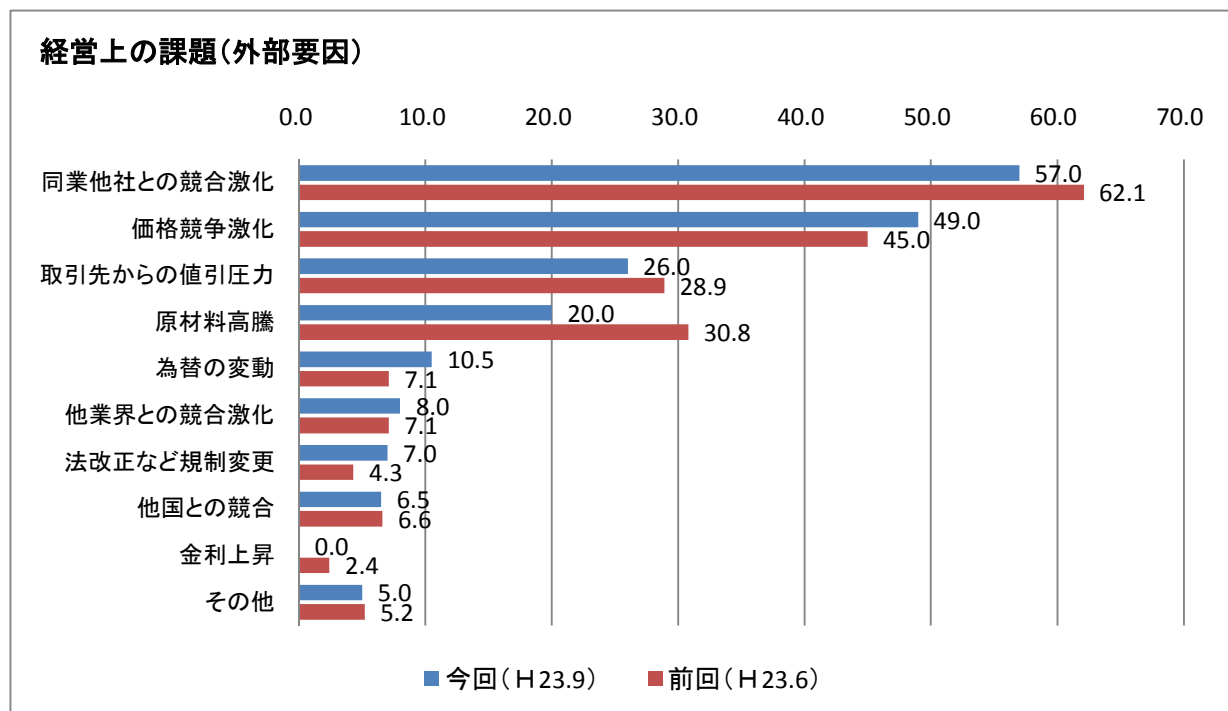


【経営上の課題】（複数回答）

内部要因では「受注・販売量不足」と回答している企業が最も多く 57.5%、次いで「販売・営業力不足」38.5%、「人材確保・育成」25.5%と続いている。



外部要因としては「同業他社との競合激化」が最も多く 57.0%、次いで「価格競争激化」が 49.0%と圧倒的に多く、次いで「取引先からの値引圧力」が 26.0%、「原材料高騰」が 20.0%となっている。「原材料高騰」は前回調査に比べ 10.8%減少しており、原材料価格の落ち着きがみられることが分かる。



【新政権に期待すること】（上位3つまで回答）

9月2日に発足した野田内閣に期待することを質問したところ、200社の回答があり（複数回答）、最も多かったのは「消費拡大のための経済支援策」で約半数を占める105社、次いで「法人（所得）税・消費税率の据置きまたは減税などの税制措置」で94社、「金融面での支援策」が69社という結果となった。

「消費拡大のための経済支援策」は、業種別でみると「建設業」、「卸・小売業」、「サービス業」で回答が多く、「法人（所得）税・消費税率の据置きまたは減税などの税制措置」は「製造業」、「サービス業」で回答が最も多くなった。

業種別にみると、「製造業」、「卸・小売業」で「円高対策」を回答した割合が他業種より多く、製造業では生産の海外移転による国内の空洞化が進み、更なる景気低迷を懸念する声も聞かれ、長引く円高について早急な対策を求めている。

また業種に関わらず、消費税に関する意見が多く聞かれ、増税による消費の低迷を懸念する声や、増税分を取引先から値引きするよう求められるため、増税により利益率が低下するなどの声も聞かれた。

前政権の発足時にも同様のアンケートを行ったが、「消費拡大のための経済支援策」、「法人（所得）税減税や消費税率据置きなどの税制措置」は前回と同様高い回答数を占め、中小企業支援について、これらの課題について早急な対応が求められている。

（単位：社）

